

ともしび保育園



2020年1月6日 発行

「寛容について」—子どもたちが幸せに生きるためのカー

<ある調査から>

アメリカのさる大学の調査において、人生において一番大切なものは何ですか、という質問を何年かにわたって行ってきた結果、常に一番になったのは「人間関係」だったそうです。一方、ある企業が離職原因のアンケートを実施したところ、「人間関係」の不具合が第一位に挙げられたそうです。この結果は何を示しているのでしょうか。

現代社会は多様化（個性化）、複雑化の時代であると言われていました。

如何に個性を伸ばすか、自分らしさを引き出すかということについて力を注ぐ時代になってきました。そしてこの傾向は自己主張に繋がり、それが高じると他者の排除となっていきます。そしてこの傾向が生きづらさを生み出しているのではないかと考えます。

<自分を愛するように、隣人を愛しなさい>

では、人間を幸せにする人間関係を創り出すには、何が大切なのでしょう。

法人のミッションの基礎である聖書の言葉（教え）によれば、主イエスは、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」と教えられています。

そして、これが隣人と共に幸せに生きるための原則であると述べています。

主イエスが生きた時代も差別や偏見、排除が横行していた時代でした。

その時代を生きている人たちに、心を込めてこの教えを伝えられたのです。

<寛容の精神—子どもたちが幸せな人生を生きるために>

ではその中身とはなんなのでしょう。「許しあう」「受け入れあう」という「寛容の精神」にあると言えるのではないのでしょうか。この精神が「私」を自由にし、そして相手の心をも開いていく、この本当の心の豊かさを子どものうちから培っていききたいものです。

現代社会は競争社会であると言われていました。「寛容の精神」など悠長なことを言うてはいられない、一步でも他人に先んじなければ世の中からおいて行かれてしまうという強迫観念にとらわれて、子ども達を先へ先へと追い込んではいないのでしょうか。

その思いに共感しながらも、そこでつけられた力が、幸せを保障するものでないことを、私たちは心に止めておく必要があるのではないのでしょうか。